

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R4入学 現3年生	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)
	64.4	64.6	61.0	58.4	55.1	46.0
	(1.13)	(1.09)	(1.11)	(1.04)	(1.10)	(0.96)
R6 正答率の全国比			1.05		0.88	

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和6年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 学習状況調査【2教科共通】に読み取れる実態
 - ・ 問題形式では、短答式の正答率が低い傾向にある。
 - ・ 無回答率が、全国や県と比べると低い。あきらめずに自分が知っている知識でなんとか解いていこうとする態度が身についている。
- 学習状況調査【国語】から読み取れる実態
 - ・ 全国や県と比べると、平均正答率が高い。
 - ・ 学習指導の領域の知識及び技能の3つの事項すべてにおいて佐賀県と全国の平均正答率を上回っている。
 - ・ 学習指導の領域の思考力、判断力、表現力等の書くことの正答率が高く、佐賀県と全国の平均正答率を上回っているが、話すこと・聞くことの正答率が低く、佐賀県と全国の平均正答率を下回っている
- 学習状況調査【数学】から読み取れる実態
 - ・ 全国や県と比べると、平均正答率が高い。3年時は低い。
 - ・ 学習指導の領域のすべての項目において、正答率が低く、佐賀県と全国の平均正答率を下回っている。特に、図形の正答率が低い。
- 意識調査から読み取れる実態
 - ・ 朝食を毎日とっているかや睡眠についての質問事項では、肯定的な回答の割合が高く、生徒は良好な生活リズムを身につけていることがうかがえる。
 - ・ 授業でICT機器をよく使って学習した生徒の割合が高く、自分の考えをまとめ、発表する場面で積極的に活用している。
 - ・ 1日当たりのゲーム(コンピュータ、スマホ)時間は、1時間以上と回答した生徒の割合が80%と高く、家庭学習時間が少なくなっている。
 - ・ 人の役に立つ人間になりたいと考える生徒の割合が高く、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っていることがうかがえる。
 - ・ 国語、数学、理科の勉強が好きな生徒の割合は高いが、授業で学習したことを今後の学習で活用しようとする生徒の割合は低い、

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・各教科においてICTを有効に活用し、他者とかかわる活動を仕組んだ「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながる授業づくりを実践する。
- ・授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する機会を増やす。
- ・電子黒板にモデルやリード文を示し、書くことが苦手な生徒にも、取り組もうとする意欲や書けたという成功体験をもたせる。
- ・定期テストや課題テスト等で記述式の問題を増やす。
- ・学級活動や道徳の授業では、自己肯定感を高める教材を計画的に取り扱っていく。

(2) (授業以外) 生徒の課題改善のための重点取組

- ・ICTスキルの向上のためにタイピングの練習を取り入れ、学習規律の効果を高める。
- ・「家庭学習大作戦」を授業と関連させながら、徹底させる。
- ・有明抄の試写によって文章の理解力を向上させる。
- ・学級活動で話し合い活動や、レクリエーションの企画などを通して、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表できる場を増やす。
- ・行事等の活動方法を工夫して、コミュニケーション能力を高める手立てをとる。
- ・学校生活全般の中で、生徒自身が自ら選択する自己決定の場面を意識的に設定する。
- ・生徒会活動において、生徒自身による企画、立案の行事を増やす。